戦争を知らない世代にも平和の尊さが伝わる企画展です。

平和を願う 戦前戦後 戦争映画資料展

日時/'17.7月22日(土)～10月18日(水) 9:00～17:00まで【※8月13日(日)は休館日】

入場無料

いのちをみつめて…戦後72年

'17年 8/5(土)日

PM 14:00～ 於:旧大連航路上屋ホール

入場料 500円

●トーク:生山えり子 ●聞き手:後藤みな子
●朗 読:生山えり子 ●歌:飯沼 洋 ●ピアノ:長田由起子

音楽と朗読で綴る "いのち"の物語

音楽と朗読の力を借りて、
静かに優しく伝えます。

共催:チーム一期一会
(東筑高校 昭和53年卒、在京有志)
松永文庫
協力:ハヤハラアトリエ、ホールソワサント
松永文庫サポーターくらぶ

「おとうとものがたり」
作/やなせたかし

◉朗読「小さい潜水艦に恋をしたでかすぎるクジラの話」(25分)～「戦争童話集」より 作:野坂昭如
◉歌♪「死んだ男の残したものは」 作詞:谷川俊太郎/作曲:武満 徹/編曲:林 光
◉朗読「やなせたかし おとうとものがたり」作:やなせたかし
◉歌♪「さびしいカシの木」作詞:やなせたかし/作曲:木下牧子
◉お話「長崎の鐘」作:永井 隆
◉歌♪「長崎の鐘」作詞:サトウハチロー/作曲:古関裕而
◉歌♪「こだま」詩:金子みすゞ/作曲:中田喜直
◉歌♪「私と小鳥とすずと」詩:金子みすゞ/作曲:中田喜直
◉合唱「花は咲く」作詞:岩井俊二/作曲:菅野よう子
◉合唱「手のひらを太陽に」作詞:やなせたかし/作曲:いずみたく

※演目は変わる可能性があります。 予定

※政治、宗教等の意図は一切ありません。

平和を願う 戦争映画資料展 ●入場無料

「戦争映画資料展」によせて

大衆の娯楽であった映画が、どのようにして戦争に束縛され、利用されていったのか。
人間が犯す最大の愚行、戦争。
原爆に象徴され、人々の心の中まで深く傷つける野蛮な戦争を、戦後、どのような反省と自戒を込めて描き続けているであろうか。
松永文庫は、今後この視点をテーマに据えて、毎年「戦争映画資料展」を開催したいと考えています。
それは、この場所が沢山の兵隊や、軍馬などが、愛する祖国、最愛の家族の幸せを願って出征した歴史を含んだ建物であるからです。

展示資料：約150点 ポスター展示リスト(抜粋)

1938年「五人の斥候兵」	1949年「ベルリン陥落」
1939年「土と兵隊」	1949年「戦場」
1943年「海軍」	1965年「革命の河」
1944年「敵は幾万ありとても」	1970年「ヨーロッパの解放」
1963年「青島要塞爆撃命令」	1970年「トラ・トラ・トラ」
1970年「戦争と人間」	1986年「プラトーン」
1976年「岸壁の母」	2001年「パール・ハーバー」
1980年「子どものころ戦争があった」	2004年「ブラザー・フット」
1989年「黒い雨」	2005年「太陽」
2008年「私は貝になりたい」	2006年「父親たちの星条旗」

■イベント情報 **マンスリーシアター**
会場：旧大連航路上屋２階ホール

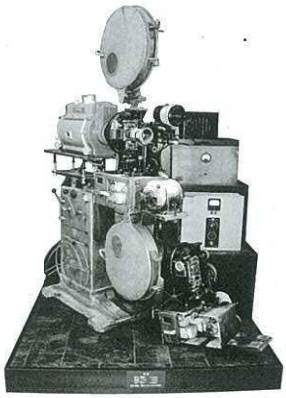
8/27日 無料

上映時間 **14:00～16:00**

「地上より永遠に」

1953年アメリカ映画
監督：フレッド・ジンネマン
出演：バート・ランカスター、デボラ・カー

松永文庫について



松永文庫は、1997（平成９年）10月、松永武（門司区長谷）が、映画研究のためおよそ60年にわたって収集した映画・芸能関連の資料を、自宅を開放して無料公開し誕生しました。2009年（平成21年）11月、これらの資料すべてを北九州市に寄贈。
北九州市の文化施設として、門司市民会館（門司区老松町）で無料一般公開されました。以来、テーマを決めて館内・館外企画展を開催し、県内外から訪れる多くの来館者に映画文化を紹介しています。
2013年（平成25年）7月、旧大連航路上屋グランドオープンに伴い、この地で松永文庫の資料展示を始めました。2016年（平成28年）5月、日本映画批評家大賞受賞。

記事は生きている。だから生かし続けたい。
松永文庫の特性は、映画俳優を含む芸能全般に関わる、いわゆる芸能人と称される人達の「生き方」に力点を置いて関係資料を収集し続けていることです。

レトロの街の映画・芸能資料館
松永文庫
展示室（旧大連航路上屋）：北九州市門司区西海岸1-3-5
TEL（093）331-8013 FAX（093）331-8012 E-mail:matsunaga.bunko@gmail.com